



NNA JAPAN CO., LTD.

〒105-7209 東京都港区東新橋1丁目7番1号 汐留メディアタワー9階
Tel : 81-3-6218-4330 Fax : 81-3-6218-4337 E-mail : sales_jp@nna.asia

MCI(P)021/06/2021

混乱下「希望」のタンク完成 香川のサンテック、事業中断せず

2月の政変後、混乱が続くミャンマーで日本企業が奮闘している。管工事・鋼構造物工事などを手掛けるサンテック（香川県綾川町）は現地生産を中断せず、医療用手袋の製造現場で使われるタンクを7月までに完成させた。原材料の調達難や金融機能の不全など事業環境は厳しさを増すが、現場の人材の労働意欲は衰えていない。幹部は「希望」を呼び掛け、事業の継続を目指す。



6月、完成したタンクの前で記念撮影するミャンマー人社員たち
=ヤンゴン近郊のティラワSEZ（サンテック提供）

工場用の設備として使われるステンレス製タンクや熱交換器、真空機器装置などを製造するサンテックは2019年8月、ミャンマー最大都市ヤンゴン近郊のティラ

ワ経済特区（SEZ）で工場を開所した。

15年から日本の工場に受け入れたミャンマー人技能実習生との出会いが、進出のきっかけだ。「実習生の実家を何度も訪れる中で、国の成長を確信した。工場の建設やインフラ整備の促進に伴う潜在性も大きい」（青木大海社長）。ミャンマーの中長期的な工業化をにらみ、実習生が祖国で活躍できる場をつくらうと考えた。

ほぼ同時期に中国で立ち上げた合弁会社で材料となる部材を生産、ミャンマーに輸出した後、ティラワで完成させたタンクなどの製品をミャンマー、日本の両国に出荷する。周囲では、人件費が上昇した中国の生産を東南アジアにシフトする「チャイナプラスワン」の動きが主流だったが、ミャンマー工場を海外事業の中心とし、中国から補完する仕組みをとった。

ミャンマーでは、サンテックが工場を稼働して約半年

NEWS HEADLINES

| | | | |
|---------------------------|---|----------------------------|---|
| 【製造】混乱下「希望」のタンク完成 | 1 | 【政治】ラカイン州の元首相ら5人、汚職容疑で訴追 | 6 |
| 【社会】熊本から市民応援ビール、収益を寄付 | 3 | 【政治】国軍が住民に警備任務を強制、パゴー管区 | 7 |
| 【政治】タン・シュエ氏入院、コロナ陽性も状態良好 | 3 | 【社会】衝突発生地のザガイン、4カ月で80人以上死亡 | 7 |
| 【社会】コロナ感染防止理由の休日、22日まで再延長 | 4 | 【社会】サッカー選手、難民認定「うれしいが国恋しい」 | 7 |
| 【金融】中銀、高額紙幣廃止のうわさ否定 | 4 | その他アジア情報 | |
| 【社会】コロナ死者数、29日ぶりに200人未満 | 4 | 【運輸】中老鉄路、10月に試験運行実施へ | 8 |
| 【社会】8月に入って減少、新型コロナ死者数 | 4 | 【社会】（表）新型コロナウイルス感染者数（15日） | 8 |
| 【政治】外務省、国連特使の会見内容に反発 | 5 | マーケット情報、その他 | |
| 【政治】国境地域にミャンマーから着弾、中国が抗議 | 5 | 商品市況 | 9 |
| 【医薬】中国商議所、独自のワクチン接種開始へ | 5 | クロスレート | 9 |
| 【農水】首都で真珠評価会、制裁対象企業も出品 | 5 | | |
| 【医薬】ヤンゴン当局、医薬品の価格統制で監督強化 | 6 | | |

を経た 20 年 3 月から新型コロナウイルスの感染が拡大。受注は当初見込みこそ下回ったが、工場向けの大型タンク生産を着実に積み重ねてきた。

「やり遂げる」

クーデターが勃発した今年 2 月初旬は、新型コロナの医療現場で使われる手袋の工場向けタンク 11 台の生産準備が進んでいた。初めてミャンマー人社員が契約した大型受注だ。ティラワ S E Z にもデモ隊が押し寄せ、3 月にはヤンゴン市街地で銃声が響くようになっていたが、「絶対にやり遂げる」と現地の元実習生から伝えられ、継続を指示した。社員らは、通勤中の検問で銃を突きつけられたり、携帯電話を取られたりしたこともある。リスクを避けるため、工場に寝泊まりする日も多かった。

生産も、国軍に抗議するために職務を放棄する市民不服従運動(CDM)が通関に及んだ影響で部材がそろわず、困難を極めた。中国からの材料輸入は 2 カ月ほど滞り、休みなく作業したが、2 カ月遅れの 7 月に納品した。

クーデターを受けて日本が新規の政府開発援助(ODA)を凍結するなど、加速していたインフラ投資は当面、停滞する可能性が濃厚だ。青木社長は、ミャンマーで生産・納品できる工場向けの案件が、この先の事業の中心になるとみるが、大型受注は混乱下でまだみえない。



ティラワ S E Z の工場で見せる笑顔を見せるミャンマー人社員=20 年 2 月(サンテック提供)

出荷を控えたタンクの前で集合写真を撮影してから 1 カ月余り、ミャンマーは新型コロナの爆発的感染拡大に見舞われている。それでも変わらないのは、青木社長の「家族同然である社員が働ける場を提供する」という投資を決めた時の思い

だ。撤退は考えていない。長いトンネルの中にいる社員に「希望を失うな、自分たちだけで戦っているのではない」と伝え続けている。

2011 年の民政移管後、最大の投資国となった日本からは企業進出もひときわ多く、ミャンマー日本人商工会議所(JCCM)の加盟事業者だけで今も 430 社を超える。

CDM や武力弾圧の影響で経済の停滞が続くが、国軍との関連がない縫製などの製造業には受注が戻る動きも出てきている。逆境下で歯を食いしばり、社員との絆を守りながら事業継続を探る企業は少なくない。

東南アジアにおける モバイルペイメントの現状と展望 2020

銀行口座保有率が低い東南アジア地域において、急速にユーザー数を伸ばしているモバイル決済サービス。主要ブランドの特徴と、産業別の普及状況を現地取材しました。

あらゆる産業で伴う「決済」をキャッシュレス化し、データ分析をもとに付加価値を生み出すビジネスが、今まさに展開されています。



お申し込みはこちら▼



株式会社 NNA グローバルリサーチグループ

販売に関するお問い合わせ 【インドネシア】 sales_id@nna.asia 【フィリピン】 sales_ph@nna.asia 【日本】 sales_jp@nna.asia

調査内容に関するお問い合わせ research@nna.asia 【URL】 https://www.nna.jp/corp_contents/service/research/